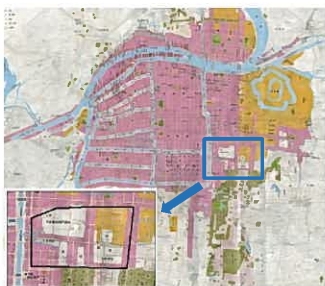


水との遭遇

大阪市中央区に位置する空堀。ここには奇妙な形をした側溝が存在する・・・

0. 奇妙な形の側溝の謎

かつて大阪都心部で計画的な市街化が進められたとき、すぐ隣に位置する空堀は瓦の土取り場や畑として使われていた。そのため空堀では無計画に市街化が進んでいった。さらに空堀は南北130間の大きな街区を有していたため、通りに面していない長屋が街区の中心部で発達していき、それらを結ぶ路地はかなり複雑なものへとなっていった。上町大地に位置する空堀はもともと起伏の激しい地域である。それに加え瓦用に土が採取されたため、空堀の地形はさらに凸凹になっている。そこに極端に複雑な路地ができたのである。もはや生活排水を流す側溝は相当いびつな形にならざるを得なかったのだ。



まちに住まう 大阪市住宅史(1989)より



路地横断面型



遺構一体型



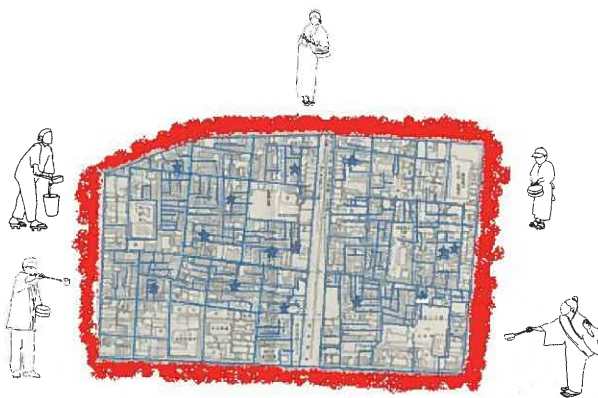
面白敷地割型



自然誘導型

1. 水と生活のあり方の提示

現代都市の中では、側溝に目をやることなどほとんど皆無である。それは水路や川に対しても同じようなことが言える。人々が水を邪魔者やや危険物として扱うようになり、自らの生活から遠ざけてしまった結果である。水は脳に遠いやられ、地下に潜らされ、高速道路でフタをされたため、私たちの生活の中で感じる事ができなくなってしまったのだ。しかし、空堀は違う。縦横無尽に走る側溝を、飛び越えたり、落ちないように避けたりすることで、強制的に側溝の存在に気づかされる。そしてそれは、水と生活が表裏一体であるという平極当然な事実の再認識につながっていく。たかが排水、されど排水。現代人の私たちは使った後の水のことなど考えやしない。それはまさに排水を感じることができていないからではないだろうか。また、水は私たちにさまざまな恩恵をもたらしてくれる。ヒートアイランドの緩和もそのうちの一つである。しかし水との関わり合いが少なくなった現代人は、そのことさえ忘れつつある。蛇口をひねれば幾らでも水が出てくる。そして使った水は一瞬の間に消えていく。私たちはもう一度水との適切な関係を取り戻さなければならない。そこで、水と生活の密接な関係を鮮烈に提示し、水に対する意識改革を促す。



★: 空け地 (2011/08 時点)

空堀が大阪のクールスポットに！
まるで超巨大版自動打ち水装置！！

2. 体感型水路ネットワークの構築

現状分析

- ①奇妙な形をした側溝は点在する程度で、それほど多くわけではない。
- ②生活雑排水や雨水を早く地下へ流すため側溝一本一本が短い。
- ③晴れの日の日にはほとんど水が流れておらず、ただの溝と化している。たまにごく少量の生活雑排水が流れているが、そのまま地上面で干上がってしまい少なからずの生活臭を発生させている。
- ④空堀内には相当数の空き地が存在する(参考図参照)

手段

- ①空堀の地形や敷地割を活かして、またがなければならなかったり、形の面白さに思わず目を奪われるような側溝を空堀中に網羅する。
- ②それぞれの側溝をつなぎ合わせたり、新たに創設することで、空堀を回避する水路へと変換する。
- ③朝・昼・夕など時間を決めて定期的に水を流す。
- ④空き地の地下部分を回遊用の雨水貯蔵として、地上部分をポケットパークとして活用する。



敷地内発生型



Y字型



軒下走行型



ジェットコースター型



連続飛び越え型



真ん中占領型



ベリーショート



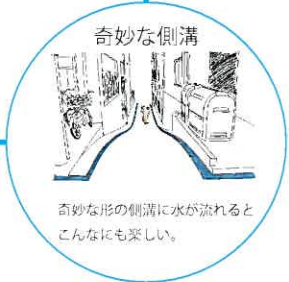
よくできている

3. 水との密接な関係を実感させ、水が与えてくれる恩恵を実感させる空堀

スタート



お皿を洗ったり、植木鉢の水を汲んだり、雨水の使い方はいろいろ。



奇妙な形の側溝に水が流れるとこんなにも楽しい。



起伏の激しい空堀ではこんなことも可能。水のせせらぎがより涼しさを感じさせる。



再認識

人々は奇妙な形をした水路に流れる水に気づき、水と生活の密接な関係を再認識する。そしてその水が空堀の中でさまざまな役割を担っていることにも気づき、改めて水のありがたみを感じるようになる。

アイデンティティー

アスファルト舗装された路地では、側溝はほとんど地下に埋められる。長屋保全がよく主張されているが、空堀のアイデンティティーは長屋と路地だけではない。長屋と路地での暮らしそのものが空堀のアイデンティティーなのである。かつての敷地割や生活様式を伝える側溝は、まさに空堀の遺産である。



オープンスペース

密集市街地の空堀にはオープンスペースが不足している。新たなオープンスペースができることで、都市としての価値も向上する。世代交代もきつとうまくいき、空堀はこれからも空堀であり続けるだろう。

コミュニティー

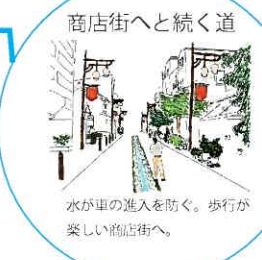
近年、ショップ経営者や芸術家などの新規移住者が増え、コミュニティーの弱体化が問題になっている。空き地を利用したポケットパークは、井戸がなくなくなった空堀の新しい井戸端会議の場へ。

長屋保全

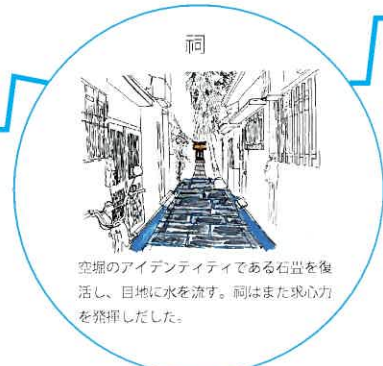
空堀での空き地は路地に面した場所に多く見られた。そのような空き地は地上げ屋の一斉買収にもつながり、周囲の多くの長屋を消滅させる原因にもなりうる。つまり、空き地の活用は長屋の保全でもある。

防災

木造密集住宅が多い空堀では、火事の危険性が非常に高い。さらに火事が起こった際、消防車の通行が困難な場所がかなり存在する。空堀内での雨水貯蔵は、緊急時の防火水槽としても機能する。



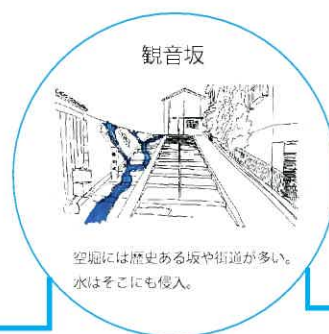
水が車の進入を防ぐ。歩行が楽しい商店街へ。



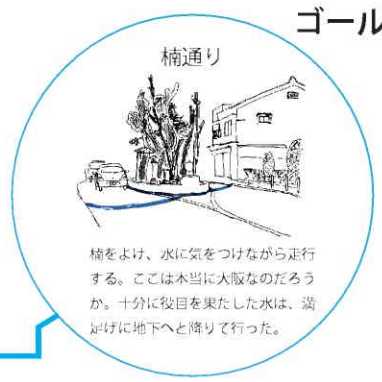
空堀のアイデンティティーである石畳を復活し、目地に水を流す。祠はまた求心力を発揮しだした。



水が自転車やバイクの泥を落とす。これで思いっきり歩行を楽しめる。



空堀には歴史ある坂や街道が多い。水はそこにも侵入。



楠をよけ、水に気をつけながら走行する。ここは本当に大膽なのだろうか。十分に役目を果たした水は、満ちけに地下へと降りて行った。

ゴール